

## 2019 年度中央システム整備（統合的発見環境）班活動報告

## 1. 活動概要

以下について取り組んだ。

- (1) 統合的発見環境のビジョンの検討
- (2) 統合的発見環境に関するシステムの調査検討
- (3) NACSIS-ILL の軽量化・合理化についての検討

## 2. 活動状況

活動計画に沿って、以下の活動を実施した。

- (1) 「統合的発見環境のビジョン」について以下の内容を含めたビジョンを作成するための検討を開始。
  - ・ 統合的発見環境に必要な機能についてわかりやすくイメージしやすい形で説明した内容であること。
  - ・ 今後、検討メンバーの入れ替わりがあった際にも、方向性を形作り継承していくことができる内容であること。
- (2) 統合的発見環境に関するシステム調査として、システムモデル検討作業部会による早稲田大学・慶應義塾大学への訪問調査に同席し、統合的発見環境に関する視点から訪問調査を実施。班内での議論を経て、統合的発見環境で対象とする範囲については、当面は冊子体の図書・雑誌、電子リソースとすることを確認。また、メタデータ流通の高度化班で検討しているメタデータを扱えるようにするため、メタデータ流通の高度化班と連携して進めていくことを確認。
- (3) 「最終的に必要とする学術情報にアクセスできる」ワークフローに向けて、ILL によるアクセスを継続して維持するため、NACSIS-ILL の軽量化・合理化案の検討を開始。

## 3. 2020 年度以降の課題

- (1) 統合的発見環境の具体化に向けた提案及び合意形成、統合的発見環境に関するシステムの調査
- (2) NACSIS-ILL 軽量化・合理化案についての検討と具体化、NACSIS-ILL 参加館からの意見募集、電子的送信、海外 ILL 運用についての調査
- (3) シェアード・プリントの全国的な実現に向けた調査と具体的なプランの提案、実現に必要なシステム要件の精査

以上